

観光地間競争時代を迎える飛騨市

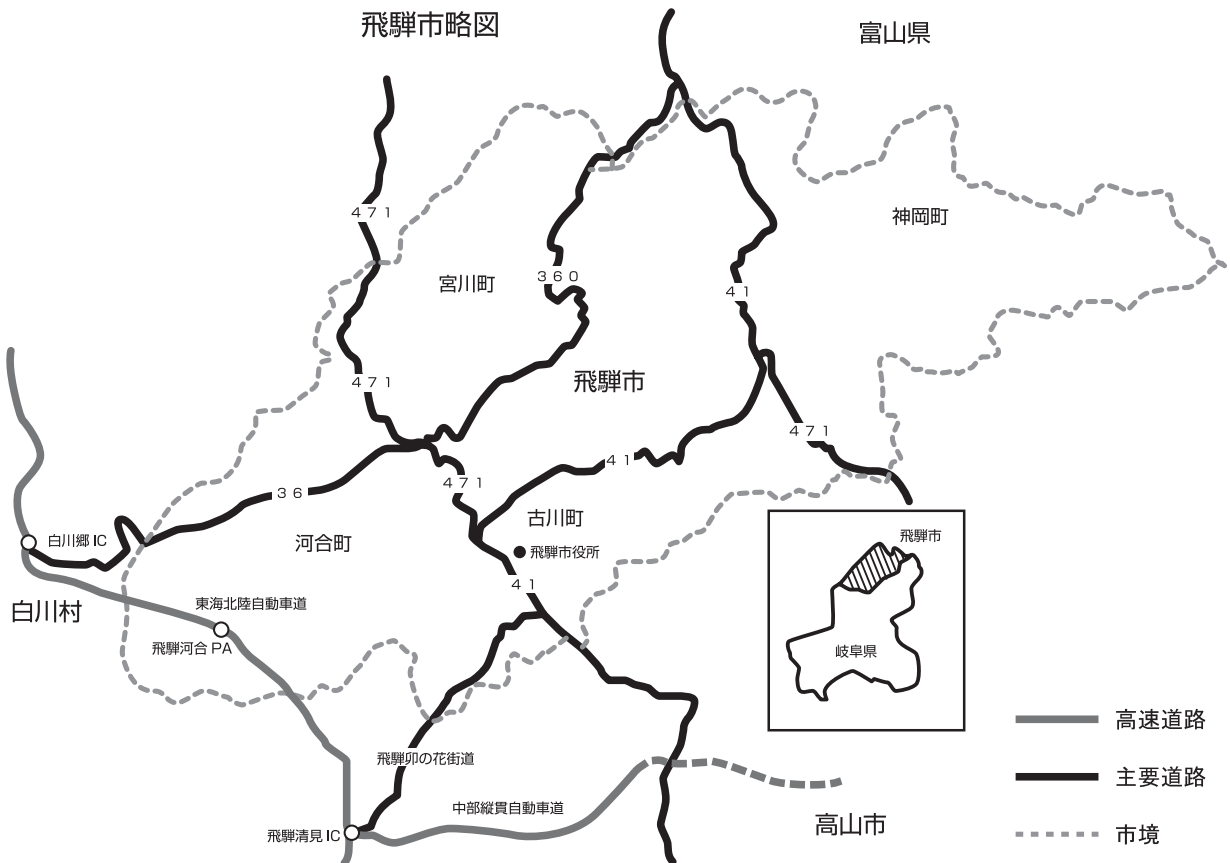
社団法人中部開発センター

客員研究員 青山 征人

はじめに

岐阜県飛騨市は、旧古川町、旧神岡町、旧河合村、旧宮川村の2町2村が2004年2月に合併した岐阜県最北端の市。面積は792平方kmと県内5番目の大きさだが、人口は2万8,479人（08年6月現在）と少なく、65歳以上の高齢者が31.21%を占める。北に3,000m級の山が連なる北アルプス連峰を頂き、はるか東南に御岳、乗鞍岳を望む雄大な山岳と、個性豊かな高原川、宮川を持つ、自然豊かな盆地である。この市の西端を東海北陸自動車道（延長185km）が今年7月に全線開通した。名古屋市から富山県まで3時間弱でアクセス可能となり、これまで東海3県にとっては、また北陸

3県にとっても東京、関西地域より遠い存在だった両地域が直結した。すでに観光業界では「広域観光」の絶好のチャンスとばかりに、岐阜県や能登半島を日帰り、一泊二日で回るコースを設定しているし、バス会社は夜行バスを走らせる。今後は東海、北陸の両市場をターゲットとする企業や、豊富で安価な用地を求める企業の沿線進出が考えられ、飛騨地域は大きく変る可能性を持つ。そこで新市誕生5年目を迎えた飛騨市を訪れ、現状と課題を探った。同市は早くから景観保全に取り組んでおり、司馬遼太郎は『街道をゆく』（朝日新聞社）シリーズの中で、旧古川町を「街並には、みごとなほど、気品と古格がある。観光化されていないだけに、取り繕わぬ容儀や表情、あるいは



人格をさえ感じさせるのである」と絶賛した。

I 大交流時代を迎えて

1 名古屋からは近い飛騨市

飛騨市へのアクセスは、JR東海高山線を使って名古屋または富山から入る鉄道アクセスと、国道41号線または東海北陸自動車道を使う道路アクセスがある。急ぐ向きには東海北陸道が便利。今回はこれを利用した。東海北陸道・飛騨清見インターチェンジ（IC）から従来の「飛騨卯の花街道」を利用して直接飛騨市に入るルートに、飛騨清見ICから中部縦貫自動車道を使って一旦高山に入り、そこから国道41号線を北上するルートが加わったため、夏場の観光シーズンにもかかわらず、道路事情はよい。名神高速道一宮JCTから飛騨清見ICまで1時間20分、そこから卯の花街道で25分の合計2時間弱で飛騨市の入り口にあたる飛騨古川まつり会館に到着した。

飛騨市を構成する2町2村は、元々「平成の大合併」で、高山市を中核とする1市14町村で広域合併を目指す飛騨地域合併推進協議会のメンバーに加わった。しかし高山市が、他の町村と一緒に新たに市を設ける対等合併ではなく編入合併、つまり民間であれば吸収合併する方式を打ち出したことに反発。同合併協議会を離脱して旧古川町、神岡町、河合村、宮川村の2町2村で対等合併し、新市に移行する道を選んだ。広域化して財政改革などを進めるのは時代のすう勢だが、一方的に吸収されて主体性はもとより、自分達の歴史、文化まで希薄になることには我慢できなかったであろう。

飛騨市の歴史は古く、飛騨市宮川町宮ノ前遺跡ではナイフ形石器や細石刃などが出土し、1万2,000年前の旧石器時代から人々が暮らしていたことを物語る。この遺跡は16層にも及ぶ地層が堆積した珍しい遺跡で、宮川上流から運ばれた土砂がそれぞれの時代の植物や動物、土器など遺物を閉じ込めたと見られる。また7,000年前の早期縄

文期といわれる古川町の沢遺跡からは黒鉛を装飾に使った土器が出土するなど、早くから開けていた。

2 飛騨の匠のふるさと

西暦645年の「大化の改新」で実権を握った中大兄皇子（後の天智天皇）は、中央集権的の支配を強め、租・庸・調の全国統一の税制を施行した。しかし山国の飛騨には米、麻布や特産物を差し出す能力はなく、「庸・調を免じる替りに、1年交代で大工と食事係を50戸に10人の割合で都に派遣せよ」と命じた。飛騨全体で毎年100人近い人が税金替りの大工として都に採られ、寺院や宮殿の建設に携わった。この制度は平安時代末期まで続いたといわれ、延べ人員は数万人に及ぶ。一家の働き手を送るため、残された家族には大変だったろうが、彼らは勤勉に働き、技術も優れていたため飛騨の匠として評価されたことが『万葉集』の一首にも記載されている。その技術が脈々と継承され、古川町の建築様式に今も残されている。JR古川駅正面から真っ直ぐ10分も歩けば、瀬戸川や白壁土蔵が並ぶ殿町、壺之町、弍之町、三之町に突き当たる。ひさしの深い、出格子をはめ込んだ二階建て商家が軒を連ね、武家町と町人町の境には瀬戸川が清らかな水音を奏で、ゆったりと鯉が泳ぐ。造り酒屋の白壁、石畳の歩道、軒下に彫刻された「雲」と呼ばれる古川町ならではの装



伝統的な木造の町屋が軒を連ねる古川町。町のいたる所でせせらぎが聞こえる。

飾の彫り物もある。住民は軒先に草花を育て、朝早くから歩道や川を清掃し、ごみ、タバコの吸殻は見当たらない。さらに感心したのは町から数分離れた田園。田の畔に大豆が植えられているではないか。4、50年前まではどの農家も、田の水が漏れないように畔を塗り替え、大豆を植えたものだが、いつの間にか農村の原風景から姿を消した。しかもこの田には小魚が群れている。田の持ち主が自然に優しい減農薬・有機栽培に取り組んでいることを示している。

3 古川を拓いたのは金森長近・可重親子

14世紀の南北朝時代に入ると、公家の姉小路家綱が飛騨国司として赴任し、統治するとともに、京文化を持ち込んだといわれる。戦国時代に入ると、神岡・高原郷は江馬氏、古川は姉小路家、益田・大野は三木氏、国府には広瀬氏、白川郷には内ヶ島氏が勢力を持ち、甲斐の武田や越後の上杉、尾張の織田などを後ろ盾にしながら争った。三木自綱（よりつな）が飛騨を平定したが、1585年（天正13）に、信長の後継者を目指す豊臣秀吉が、越前・大野城主の金森長近に、反秀吉の佐々成政と組んだ三木氏討伐を命じ、これを滅ぼし、以来金森氏による飛騨一元支配が確立した。長近は当初古川に滞在し、後に高山城を築城して移り住んだが、古川には跡継ぎの可重（ありしげ）に1万石を分け与え、増島城と城下町造りを命じた。可重は宮川と荒城川を天然の要害として利用し、その内側に増島城と城下町を造り、武家屋敷と町人町の境界には瀬戸川を引き込んだ。城は後の一国一城令で取り壊され、武家屋敷は農地に姿を変えたが、町人町はそのまま残った。残念ながら、1904年（明治37）の大火で町の9割に当たる家屋836戸、土蔵20棟、寺院などを焼き尽くす被害を受け、その後建てられたため、いわゆる伝統的重要建築物群には当たらないものの、歴史と伝統を重要視する住民の高い文化意識と匠の技術をいかんなく発揮し、元のまち並みを復活させた。古川の住民には「相場（そうば）」という共通認識があり、隣



金森長近・可重親子が築いた増島城。後の一国一城令で城はとり壊され、石垣と堀が残る。

近所と調和しない家は建てないという不文律がある。異質なものと高さの違うものを建てると「相場くずし」と非難され、その高い意識が秩序ある街並みを守ってきたのである。街なかに観光客を当て込んだ安物のみやげ店やコンビニがないのはそのせいだろう。なお増島城は石垣と堀の一部が残っており、岐阜県の史跡に指定されている。

4 鉱山開発で財をなす

金森氏は、高山・古川町の支配、林業経営、鉱山開発、新田開発など積極的に推進し、飛騨の基礎固めを行った。特に鉱山については、飛騨西半分を宮嶋平左エ衛門、東半分を糸屋彦次郎、後の茂住宗貞を責任者に立てて積極的に開発させた。俗謡に「茂住宗貞どえらい男、鼻で金銀嗅ぎ分けた」とあるように、宗貞の行くところ、悉く鉱脈に当り、和佐保、茂住両鉱山を始め神岡の鉱山を次々開発した。宗貞の全盛時代には神岡町茂住金竜寺あたりに豪邸を建て、毎日7駄の金銀を積んだ牛車が出入りしたと伝えられている。最盛期には茂住鉱山だけで1,000軒の鉱山住宅があり殷賑を極めたし、「(飛騨は)領地3万石といえども18万石余これあるべくとの風説なり」(加賀前田家文書)との記述を残すほど藩の財政は豊かだった。両人とも金森氏には信任厚かったが、藩内に宮嶋を讒言するものがあって宮嶋は切腹。これを聞いた宗貞は身の危険を感じ、越前敦賀に逃れたとい

う。

その後、107年にわたって飛騨を支配した金森氏は、1692年（元禄5）の6代目頼吉（よりとき）の時、幕府の命令で出羽の国（山形県）上山へ国替えを命じられ、飛騨は幕府直轄の天領となって明治を迎えた。国替えの理由は諸説あるが、財政に窮した幕府が金銀鉱山を直営化するために命じたと思われる。この神岡町は古川町からクルマで40分。そこから高原川沿いに20分程度北上するともう富山県である。その手前に茂住鉱と金竜寺がある。茂住鉱の持ち主は三井金属鉱業神岡鉱業所だが、現在は採掘を中止しており、その跡地の地下1,000mに広がる用地を利用して東大宇宙線研究所が素粒子ニュートリノの観測を行っている。また宗貞の住居跡は金竜寺の境内だけでなく、高原川を挟んで西茂住まで及ぶ巨大なものだったと言われるが、今はその面影はない。同じ



茂住宗貞宅跡といわれる茂住金竜寺。最盛期には毎日七駄の金銀を積んだ牛車が出入りしたという。



江馬一族が北飛騨を治める拠点とした下館（しもやかた）跡に復元された、中世武家館。全国でも珍しい建物。

神岡町にはかつてこの地を治めた江馬氏の城館が復元されている。水田に残る大きな石を発掘したところ、伝承のとおり、庭園を持つ中世武家館跡が見付かった。そこで総事業費18億円をかけて、庭園、庭園を鑑賞する会所と呼ばれる建物、門、土堀などを復元し、公園として開放している。江馬氏は伊豆国江馬荘から地頭として入国し、しだいに周辺の土豪を支配下に組み入れ15、16世紀には北飛騨に勢力を持ち、越中に攻め込んだこともある。しかし最後は信長を後ろ盾にした三木自綱に敗れ、討ち死にした。

5 まつりと美しい自然

飛騨の冬は長くて厳しい。最低温度はマイナス10度以下だし、積雪も多いときは2mを超す。それだけに住民が春を待ちわびる気持はどこより



春を待ちわびた男達が4月19日の夜にはぶつかり合う「起し太鼓」（飛騨市提供）



作物の種（たね）を保存する種蔵が点在する宮川町。棚田が美しい。

も強く、それが祭りになって現われる。雪解けの4月19日には裸男が大太鼓を打ち鳴らす「起し太鼓」と屋台（山車）の曳き揃えを行う古川祭（国指定重要無形文化財）が、また4月最終土曜日には平安絵巻さながらの神岡祭りが行われる。この頃飛騨は梅、桜、桃の花が一斉に咲きそろい、宮川町の池ヶ原湿原や河合町の天生湿原には、水芭蕉など湿原植物が可憐な花を咲かせる。花が終わると今まで灰色かかっていた野山が芽吹き、あふれる緑に包まれる。日中の温度が30度を越すこともあるが、朝夕は涼しく、快適にすごすことができる。この高原性気候を活用したのが数河（すごう）高原のラグビー合宿。30年前、旧古川町の森林公園陸上競技場を開放したところ、岐阜県ラグビーフットボール協会らが、夏季合宿地としての使用を求めてきた。九州をのぞいて合同合宿するようなラグビー施設が東海、関西にはなかったのである。町では「地元の活性化に繋がる」と判断し、41号線沿いに町営グラウンドを次々オープンし、今では全部で9面に増え、年間1万人が訪れるようになった。

II 飛騨市の目指すところ

1 景観行政団体への取り組み

飛騨市は、昨年8月景観法に基づく景観行政団体に名乗りをあげた。

全市を計画区域の対象とし、2011年までに景観計画を策定し、条例化する考え。来年度から内容検討に入るが、同市が急いでいないのは、旧2町2村とも早くから景観へ取り組み、それぞれ景観条例を持っていたため。

旧古川町の取り組みを見てみよう。清流を鯉がゆったりと泳ぐ、古川観光の象徴的な瀬戸川も昭和40年代前半までは生活排水とごみで汚染された川だった。1968年（昭43）、地元新聞が、街の美化や鯉の放流を呼びかけたところ町民有志が200匹の鯉を寄贈するとともに、鯉の流出を防ぐ12ヵ所の鉄柵に引っかかるごみの清掃を住民自

ら行ったのが街並み景観作りの原点だった。1985（昭60）には古川町観光協会が「景観デザイン賞」を提唱し、出格子、腰壁など町家様式を残す建物を表彰してきた。さらに86年には（財）日本ナショナルトラストに街並み調査を依頼した結果、建物の腕木の下に「雲」と呼ばれる文様を彫り込み、白色に着色して装飾物とした木造真壁造りの町家は飛騨独特のものであることが分かった。雲はあくまで装飾品だが、大工それぞれが文様を工夫し、同じものが2つとない。「この家は俺が建てた」と自己主張の印と見てよいが、それほど大工は自己の技と経験に誇りをもっているのである。ナショナルトラストは、古川の街並み保存とともに、飛騨の匠の建築技術を継承すべき、との調査をまとめ、それが「飛騨の匠文化館」建設に繋がった。日本宝くじ財団の助成金を財源に89年、瀬戸川に面した一角に同文化館を建設した。この建物は飛騨の材木を使い、釘やボルトなど金具を一切使わず、組み手や継ぎ手といった昔ながらの建築法を採用したのが特徴。さらに92年には古川の祭を紹介する「飛騨古川まつり会館」や飲食施設、みやげ物販売コーナーがオープンして観光地としての体裁が整った。しかし入込み客が増えると、ホテルの高層化計画が持ち上がった。地元の旅館と外部資本が5階建て建設を打ち出したのである。「相場くずし」との反対の声が出て、地元旅館は4階に引き下げ、外観も周囲に合わせたが、外部資本はそのまま5階建てを押し切った。このにがい経験を基に、95年に古川町景観基本計画を策定し、96年には飛騨古川ふるさと景観条例を策定した。歴史景観地区では3階建て以下、その他では「4階建て以下」と高さ制限した。

2 観光地間の競争激化

東海北陸道の全線開通で、東海と北陸の距離は縮まった。中日本高速道路は、全通記念周遊プランとして、ETC（自動料金収受システム）による高速道路の乗り放題プランを打ち出した。名古屋地区または北陸地区の発着エリアから東海北陸

道の周遊エリアまでの1往復分を、普通車で4,500円に設定し、しかも周遊エリア内であればなんでも乗り降り可能という便利な商品である。またJTBなど旅行社は、岐阜県の高山や白川郷と能登半島など北陸の観光地を組み合わせた商品を発売している。観光目的地が今までより1、2箇所増えるため、欲張り型観光客にはありがたい。しかし観光地間の競争が激しくなることは確か。これまで滞在型観光地として発展してきたところが、トイレ休憩の立ち寄り型観光地になる危険性は十分にある。飛騨市の場合、東海北陸道のインターチェンジから離れているのと、周辺に高山市と白川郷という強豪が控えるため、競争はこれまでに以上に激しくなる。このため飛騨河合パーキングエ

リア（PA）内に、飛騨市に直接乗り入れるスマートインターチェンジを設け、北陸からの観光客を呼び込もうと実験を始めている。11月までの限定実験で、効果があれば国や中日本高速道路に本格導入を要請するが、果たしてどうなるか。飛騨市では、観光協会が中心となって「食・自然・ひと」をキーワードに、新たな観光ルートの開拓に乗り出す。

■ 感想

飛騨市を語るとき、避けて通れないのは今年2月の市長選。大型事業導入など積極的な市政運営を展開し、2期目を目指した旧神岡町を地盤とす



「(偽装問題は) 僕が悪い訳ではありませんよ」と言いたげな飛騨牛のモー君—山勇畜産にて。山村勇人社長は「我々に出来ることは安全安心な肉牛を育てることだけです」



鉱山跡が次々潰されていくのを残念がる奥田静平さん。奥田さんは95才ながら、今でも米粒に10文字位書く若さのもち主。



手づくり和ろうそくを披露する三嶋和ろうそく店。朝の連続TVドラマ「さくら」の舞台ともなった。



在郷料理ながら飛騨ともえホテルの夕食は美味しかった。山菜、そば、川魚（なます）、飛騨牛など地元の食材がふんだんに使われたいた。

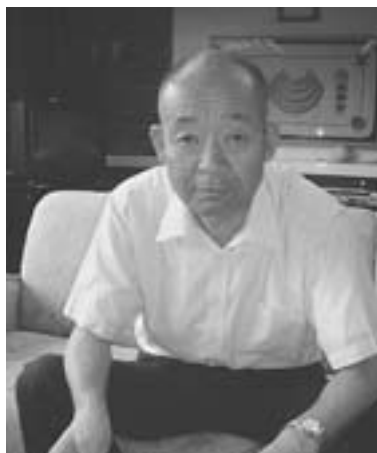
る船坂勝美市長に対し、旧古川町出身の井上久則元飛騨市助役が一騎打ちを挑み、井上氏が当選した。はからずも旧町どうしの対決になったが、このしこりをいかに、早く解消するかが飛騨市発展の鍵を握ると思われる。少子高齢化や雇用の減少、財源の減少など課題山積の中で、市経済を拡大するには観光開発、企業誘致など市民全体が一致協力していかなければ達成できない課題ばかり。観光といえば、飛騨市には神岡鉱山という貴重な産業遺産がある。現在も操業しているのだから、遺産というのは失礼だが、採掘しなくなった茂住鉱などを開放すれば貴重な観光資源となる。60年間にわたって三井金属に勤務し、今年95歳を迎えつつかくしゃくとしている神岡町本町の奥田静平氏は「選鉱場など次々自然に潰れている。このままでは1,300年前の養老年間から記録に残る、日本の文化遺産ともいべき神岡鉱山は歴史から消えることになる」と心配する。飛騨市は井上市長を先頭に丸となって後世に残すべき遺産を保存しつつ産業観光資源として活用する道を模索してもらいたい。最後に、飛騨市の食事は期待以上に美味しかった。そばによる町おこしを進めており、ざるそばの味は格別だし、飛騨ともえホテルで夕食に出された120gの飛騨牛陶板焼きも絶品だった。

参考文献

- (1962)：「飛騨の史話と伝説」(北飛タイムス社)
(1987)：「街道をゆく」(朝日新聞者)
(1998)：「郷土古川」(古川町教育委員会)
(2000)：「岐阜県の歴史」(山川出版社)
(2004)：「六郎谷砂防と神岡鉱山」
(神岡鉱山と六郎谷砂防を語る会)
(2007)：「新時代の観光」(同文館出版)
(2008)：「神岡町史通史編」(飛騨市教育委員会)

市長インタビュー

飛騨市長 井上久則氏に聞く



コメント「北陸方面からの観光客を誘致するため他の観光地と一緒に広域化を進めていく。」

略歴

- 1968年 3月 県立斐太実業高校卒
1968年 4月 林エンジニアリング入社
1970年 3月 同社退社
1970年 4月 古川町採用
2003年 4月 古川町収入役
2004年 2月 合併により飛騨市基盤整備部長
2005年 4月 飛騨市助役
2006年 3月 同辞職
2008年 3月 飛騨市長就任

岐阜県出身、59歳

一東海北陸道が全線開通しました。飛騨市は飛騨河合パーキングエリア内にスマートインターチェンジを設置して北陸からの誘客実験を開始しました。

井上 東海北陸道の全線開通は大変期待していた。これまでの東海、関西に加え、北陸方面からの観光客が期待できるためだ。河合PA内で飛騨市に直行できるスマートインターチェンジの社会実験を11月まで行っており、成果を出したい。成果が上れば国や中日本高速道路が本格的に採用してくれる。利用台数を一日平均160台に設定して

いるが、PR不足なのか、それとも同PAより飛騨市までクルマで40分かかるためか、予想台数を下回っている。また利用できる車両も軽、普通車、マイクロバスに限られ、二輪車、大型バスが利用できないことも影響があるかも知れない。悪いことばかり考えてもしかたがない。課題は飛騨市の魅力を増やし、いかにアピールしていくかである。これまで北陸方面からの観光客の南限は白川郷だったが、これからは白川郷から飛騨市に来てもらい、国道41号で富山に帰っていただくなど観光の広域化を推進したい。残念ながら全線開通で観光客が増えているのは白川郷、高山市、奥飛騨温泉郷などのものである。

—「飛騨市とばし」の危険性があります。対策は。

井上 名古屋など東海地方の人にとっては3時間足らずで富山なり、石川県に行くことができるのだから便利。加賀や能登の温泉にゆっくりつかって、その日に帰ることができる。反面、東海北陸道から距離のある飛騨市のような観光地や、都市部に近い観光地は飛ばしや、滞在型から立ち寄り型に格下げされる危険性が十分にある。現在、飛騨市観光協会が中心となって、対策を協議している。9月下旬の「きつね火まつり」(古川町)に合わせてイベントを開催し、PRしていく。飛騨市は1度来ていただければ、その良さが分かってもらえるし、2度、3度と訪れたい町だと自信を持っている。かつて作家の司馬遼太郎さんが「(古川町は)観光化されていないだけに、取り繕わぬ容儀や表情、あるいは人格さえ感じさせる」と書いてくれたように、他の観光地のように飲食店、みやげ物店が少ない分だけ、町の風情と住民のもてなしの心が程よくマッチし、観光客に癒し効果を与えていると思う。

—それにしても古川町の街並みは整備されています。奇をてらった建物は無いし、コンビニやスーパーも見かけない。

井上 今から10年ほど前に下水道整備を行った時、構造上の都合で改築した家がかかなりあったが、

皆昔ながらの木造二階建て、白壁造りに合わせてくれた。古川には「相場くずし」という言葉があって、周囲に調和しないものは嫌うという不文律があり、それが飛騨市の町づくりの原点となっている。飛騨市の景観保全は、行政主導ではなく、市民から提案されたものを市、住民一体となって取り組んだことで成功した。

—井上市長は就任後の仕事として、市政の総点検を実施する考えですが、その狙いはなにですか。

井上 私が過去36年間行政に携わってきて学んだことは「住民の声をしっかり聞いて、住民のために何をなすべきか」ということである。そのためには市政移行4年間と、現在進行している事業、計画のすべてを総点検して市民に明らかにするとともに、市民の声を反映させた政策を実行していく。市長を本部長とする飛騨市政策総点検推進本部を設置して、政策の経緯や投資効果、行政手続、組織などを点検するとともに、職員には現地調査や市民、団体の声を聞いてもらう。評価シートを基に、分析・点検を行って、施策の継続、拡大、縮小、見直しなどを決め、行政と市民が協働で評価し、実行する。今後の飛騨市は、人口の減少に伴う税収の落ち込みに加え、社会保障関係費やこれまでの積極投資による借金の返済など財政圧迫要因を抱えて苦しくなる。限られた財源で、いかに効率的な行政サービスを行うかが課題である。飛騨市は、6年後に合併特例期間終了を迎える。特例期間中は、国の制度や補助金で手厚く援助されてきたが、2013年移行は段階的に縮小されていく。学校の耐震化整備は10校の内2校しか済んでないし、高齢者の施設も必要になるなど、費用は益々増え続ける。

—市長が優先的に取り組む課題はなにですか。

井上 大きく分けて3つ。一つは医師の招へいと救急体制を整備して市民に安心して暮らしていただくこと。二つ目には先ほど言いました老朽化した保育園や学校の改築。三つ目は地元が持つ可能性を活かした経済の回復、安定である。飛騨市に

は先人から引き継いだ伝統技術や農林資源、すばらしい自然景観と歴史・文化がある。これらの資産を活用した経済振興策を進めたい。現在操業している木工や薬品会社に努力してもらって雇用を拡大するとともに、新たな観光推進策や飛騨牛に代表される飛騨ブランドの育成強化、企業誘致など進めていきたい。企業誘致については用地をいつでも用意できるから、従業員ともども移転して来てほしい。飛騨市では、定住人口そのものを増やす計画を進めており、諏訪田団地を完成した。宅地分譲56戸、公営住宅60戸は今年度中に完成する。宅地分譲で初年度分は完売だし、次年度分も26戸の内10数戸は売れている。

—今回飛騨牛が偽装問題に巻き込まれました。残念ですね。

井上 官民一体となって飛騨牛の生産に努力している時に、偽装問題が発覚したことは残念だ。昨年10月には、鳥取県で開催された第9回全国和牛能力共進会で、たくさんの強豪を前に、総合準優勝を果たし、肥育農家、行政とも自信をつけてきた矢先だけに、こういう形で信用を失うことはつらい。飛騨市では、地元で生まれた子牛を地元で育てた純飛騨牛（黒毛和種）を生産し全国に出荷するため河合町に「飛騨牛繁殖センター」を整備するとともに、牧場を増やしていく。将来は市の産業の中核となるよう農家ともども努力したい。食品偽装が跡を絶たない中、飛騨市では牛を始め、高品質野菜など安心安全な食を提供していく。

—ありがとうございました。